

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：S R S株式会社

定 価：一部 30 円

2015年 3月 20日

第 381・382 合併号

ありのままの〜

その人らしく

在宅支援センターぱびるす

所長 雨宮 寛

「ありのままの〜」ぱびるすに通うや  
つと言葉を話し始めた幼児さんでも、毎  
日のように口ずさんでいたフレーズで  
す。意味も分らないまま歌っているぱび  
るすの子ども達は、本当に子どもらしく  
天真爛漫、我まま一杯、まさにありのま  
まです。大人や親からすれば、困った行  
動に思える幼児期の我まま一杯の様子  
も、その後の子どもの心の成長にとつて  
は、とても大切で必要なことです。歌詞  
は、自分を偽らずに自由に生きるとい  
うような内容だつたと思います。好き勝手  
に生きて良いわけではありませんが、誰  
もが望み私自身、そうできればどんなに  
楽しく生きがいのある人生になるだろ  
うと思います。

そんな歌が流行る一方で、未熟さを受  
け止めてもらい子どもらしさを許容さ  
れてきた子供たちには、厳しい時代にな  
つてきたと感します。子どもの相談や支  
援を行っている役割柄、大人都合でつく  
られた社会や家族のあり様の中で、子ど  
もらしさを失っている子ども達に出会  
います。虐待や子どもの貧困などという言  
葉が盛んにニュースの中でも取り上げら  
れる昨今です。核家族化や経済優先の社

会の中で、こうした子どもたちが増え続  
けているといわれます。親や周囲の思い  
通りになり難い子どもは、被害の対象に  
なってしまうがちです。皆がそれほど豊  
かでない時代には、子どもの貧困な  
どという言葉も聞かれなかったように  
思います。子どもらしくない子が増えた  
とも言われます。そんな社会状況の中  
で、子どもらしさは押さえ込まれ大人  
化せざるを得ないのかも知れません。気  
遣いや気兼ねなどなく天真爛漫にし  
た子ども達にとつては、生き難い時代な  
のかも知れません。

「その人らしく」を障がいのある人や  
その家族に当てはめて考えてみても同  
じようなことがあります。行政などが福  
祉に関する計画を作成する際に、「障が  
いがあつてもなくても安心できる街づく  
りを目指します。」といったようなキャッ  
チフレーズを使います。安心できる街と  
は、交通や環境のことだけでなく、人の  
心のバリアフリーの意味もあるように  
思います。障がいのある人やその家族に  
とつて心のバリアフリーとは、差別なく  
ありのままにその人らしく生活するこ  
とを受け止めてくれる地域社会のあり  
方なのではないかと考えます。その意味  
では、障がいやその特性によって、まだま  
だ多くの制限や制約を受ける現状は、  
福祉サービスの充実とは別に、生きづら  
い社会のままなのかも知れません。  
ノーマライゼーションという理念が提

唱されて久しくなります。障がいがあつ  
ても、いわゆる健常者と同じように当た  
り前に生活できる社会こそノーマルな  
社会だとする考え方です。日本の福祉や  
その施策にも大きな影響を与えてきま  
した。障がいや特性のあることがハンデ  
イにならない社会はいつ実現するのだし  
ようか。最近では、インクルージョンとい  
う考え方もよく耳にします。「包括」とい  
う意味のようですが、教育の場では、障  
がいがあつても通常の学校や教室で教  
育を受けることができるように配慮し  
ていくというものです。簡単なことでは  
ないと思いますが、子どものうちから当  
たり前に同じ学校や教室で学び、身近  
な地域で遊ぶことができれば、大人にな  
つた時に一緒に働き生活することも当た  
り前になると考えるのは安易でしょう  
か。どちらの考え方も、障がいや特性に  
配慮しながらも通常の社会や場所で、  
皆が一緒に生活することを目指してい  
ます。

牧師の父が「共に生きる」という言葉  
を説教でよく使っていました。弱い存在  
であるお年よりや障がいのある人を引  
き合いに出しながら共に生きることの  
大切さを語っていたように思います。弱  
さを含めその人らしさを認め支えあい  
ながら共に生きることでできるそんな  
社会を願いつつ「ありのままの〜」と歌う  
子どもたちと共に過ごしている最近で  
す。

# 平成26年度小羊学園研究発表会優秀賞

平成27年2月28日に聖隷クリストファー大学で「小羊学園研究発表会」が行われました。6題発表された中での優秀研究を報告します。

## 『スイッチを利用してより楽しく わたぐもで過すための取り組み』

わたぐも主任 佐野 公一

### ケース概要

氏名 Nさん 29歳 男性

本人の状態は、日常的に仰向けでの姿勢で過ごしています。自分から体位を変えることはなく、クッション等を用いて右左臥位の姿勢をとっています。上肢機能、物を持つことは可能です。緊張で力が入りやすいです。気管切開をしてカニューレを挿入しています。痰を自分で出すことは難しく吸引しています。聴覚・視覚は特に問題はありませぬ。コミュニケーションで言語はありません。



### 研究動機

寝たきりで一見表出の乏しいNさんは日常的に目線や手の動きが多くみられます。緊張して動いてしまうこともありますが、職員の言葉に反応して意識的に動かしているのではないかと、思われるような場面に遭遇することがあります。しかし確信できるものではなく、その場かぎりで終わっている事も多いです。Nさんの手の動きや指の動き、目の動きをよく見ていると小さな動きではあるものの何らかの方法でその動きを利用し意思を汲み取ることができないのではないかと、と思われるような動きです。もし彼が彼の自発的な手や指、目の動きで自分の意思が伝えられ、職員がうまく汲み取る事が出来れば、日中の生活や活動において選択の幅が広がるでしょう。今回、そのための一つの手段として、『少しの動きでも反応するようなスイッチ』というツールを利用し、本人の自発的な動きで自分の意思でスイッチを動かし、活動に参加できればより充実した楽しい「わたぐも」での生活と日中活動が送れるのではないかとという理由で

取り組みました。

### 実践と経過

(経過1)

表出(Yes・Noなど)の共通理解を深めるためにスマイルシートを利用して活動全般の様子をチェックをしました。スマイルシートでは体のどの部分でどんな表出があったのか記録します。本人の好きなことや興味のある事でなければ身体は動かないという理由から、また永井さんがどう思っているか、好きなものや本人が取り組みやすい活動を探すためにスマイルシートを利用しました。スマイルシートでチェックしていくと特に手や指、目線に動きが多いことが改めて確認できました。



スマイルシート

手、指や目線の動きで意図的に動かしている『動き』だと思われるところを見て、スイッチを使用する際にどの『動き』を「スイッチを押す形」に採用するか決める材料にしました。そしてその『動き』に合わせたスイッチの形状を用

意し、今回は、指先のわずかな動きでオンオフできるスイッチを採用することにし、活動はクッキングや紙すきを中心にミキサのスイッチを入れてもらうことに取り組んでもらうことにしました。

スマイルシートにより看護記録のポイントがはっきりしました。ポイントはまず活動でスイッチの操作が自発的な意思の感じられる動きであったかどうか。また、手や指、目の動き、スイッチの位置が適切か、声掛けに対する反応、などを看護記録にのこしました。スマイルシートの使用で、看護記録の書き方のポイントを統一することにより職員はさらに意識的に関われるようになっていきました。

(経過2)

紙すき活動のワンシーンにミキサーを使用するシーンがあります。本人の触れやすい、左手の甲あたりにスイッチをセットし、スイッチに触れてもらうように職員は声掛けをします。手の甲で押す、手のひらで握るなどそのときの状況によってセットは変えました。声掛けの仕方はわかりやすい説明と意欲を引き出すような応援と出来たときの達成感を感じられるような言葉かけをしました。自発的な動きよりも緊張で手が動きスイッチに触れたことがありました。なかなか手を動かすことがなくても言葉がけで時間を掛けて待つことによりスイッチに触れることもありました。活

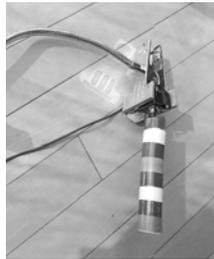
動の場面で職員との関わりの中でどれだけ活動を理解し、職員の言葉がけを認識してスイッチを触ることができているのか、またいないのか。さらに繰り返し取り組みました。

活動以外の余暇時間にスイッチを使用してみました。スイッチの先に「光って喋るおもちゃ」をつなげてみます。1、2回職員と一緒に言うと、すぐに自ら左手指先を動かしてスイッチを入れていきます。活動のなかでもキラキラ光るものやイルミネーション的なものは特に好きな方です。好みのものに対しては自主的に行うことは当たり前と言えば当たり前ですが、今回は積極的に対象物と手元を見てスイッチを触ろうとする行為がみられていました。

余暇時間でのスイッチの関わりを受けて、余暇時間の関わり方のカンファレンスを行いました。活動姿勢は抱っこで行う事も検討されましたが、抱っこは排痰目的で行うため力が入りやすく、力が入る事でスイッチを触ってしまう事があります。そのため車椅子に乗り行う事が提案されました。また、時間は、午前中は特に排便時に多く緊張が入ってしまうことがあるため、15時過ぎには緊張が入る事も少なく、その時間に車椅子へ移乗しスイッチをセットすることになりました。リハビリホールに場所を移しリハビリホールにあるスイッチの先に着けるもの、本人が興味のあるような動くおも

ちゃ、人形、パソコンのマウスに繋げて写真を見る、などを提供してみることにしました。

15時過ぎに車椅子に乗車しスイッチを付けてリハビリホールに移動します。パソコンの前に行き、以前フェスタで撮った写真を見よう、と誘うとパソコンの画面をじつと見ています。フェスタの写真と一緒に見る事、スイッチに触ると写真が変わる事を説明しました。やり始めると声掛けだけでスイッチを触りその都度画面の写真がづきづきと変わっていく様子も人も変わっていく写真を見つと見ています。短い時間でしたがパソコンの中の写真がづきづきと変わることに興味を持って行えたことがよく伺えました。



→スイッチの操作部分



↓操作を行うNさん

**結 果**

結果、活動の場面ではスイッチを動かすことをお願いしてもなかなか動かしにくれないことが多くみられました。余

暇時間の場面でも興味を持って一回目は何度もスイッチを触ってくれますが、二回目はなかなか手が動かないということがありました。スイッチを使って自分の意思を伝えようとしたかは判断できませんが、少なくとも自らスイッチに触れ何かを動かすことはできました。うまくいかないことのほうが多かったが自発的にスイッチを動かしているであろうと思われる場面はありました。

一方、職員は本人が繰り返し行い確実性を上げること、こうすればこうなる、という事につながってくれば自発的な訴えにつながるであろうという仮説で望んだ結果、ゆっくり説明し繰り返し行えるような声掛けや出来たときに達成感を感じられるような言葉がけを意識的に行うようになりました。また、スイッチの先につながるものが本人の受け入れやすいものに変更したり、姿勢、時間なども本人が受け入れやすいものに变化してきました。Nさんに対するスイッチを通じた関わりは職員に新たな視点や工夫、支援の方法に大きく影響しました。

**考 察**

なぜ職員の意識に変化が見られたのでしょうか。スマイルシートで日ごろな人となく思っていることが文字や絵という形にできたこと、それらを共有できた

こと。スイッチを使用することにより本人の動きが浮き彫りになり、誰が見てもはつきりとわかりやすくなったこと、そのうえで関わる事ができたこと。この二点が職員の意識の変化に大きく影響していたと考えられます。そして職員自ら、スイッチを他の利用者にも応用して活動を行うようになったことからその影響はうかがえます。

表出の少ない利用者に対し、私たちが活動を提供する際に、その取り組みが本人にとって本当に受け入れられるものであるか慎重に考えるべきで、また、わからないことをわからないとするのではなく今回のようにスマイルシートやスイッチなどのツールを導入し少しでも理解を深めていくことが大事であると考えました。本人はどう思っているのか、どうしたいのかを考え、そのうえで、本人のやりたい気持ちを大切にしておく。そして、本人の持つ力を引き出す支援をする、支援を考える。今回の取り組みはNさん本人の変化も大切でありましたが、それ以上に支援者である私たちの意識に変化があったことが大きかったと思います。Nさんとの関係性の中で自ら感じることの重要性、「これ面白い、楽しい」という気持ちを大事にして取り組む大切さを教えてもらいました。

今後、このスイッチの取り組みからNさんが電動車椅子で自分の行きたいところに行けたら面白いな、と思いました。

### 合同の教会学校を行いました

三方原スクエアでは、毎年2月に遠州教会の教会学校の子どもたちと合同の礼拝を行っています。今年は2月28日(土)の午前中に合同礼拝を行いました。遠州教会の子ども5名と大人5名が来訪されました。礼拝では、一緒に讃美歌を歌った後、出水施設長の説教を聴き、み言葉に触れました。礼拝後には、トーンチャイムの演奏や、大月美保子姉の指揮のもと一緒に季節の歌を歌い、交わりを深めることができました。中には毎年来てくれるお子さんもおられ、利用者とも親密に接することができていました。また、教会バザーの収益金をご献金いただきました。



### 小羊学園を支えるボランティア

#### たんぽぼの会様

たんぽぼの会様は、細江町中川にある高台幼稚園の家庭教育学級で集まったお仲間。家庭教育学級で小羊学園の見学と山浦園長の講演をきっかけに、ボランティアとしてお手伝いいただけるようになりました。当初は幼稚園の保護者仲間と構成されていたようですが、地元細江町のご婦人が加わりました。昭和57年2月から始まり、今日まで33年間、毎月第4・5水曜日に三方原スクエアで洗濯物畳みや裁縫の奉仕をしていただいています。永年のご奉仕、本当にありがとうございます。感謝！



### 機織りの展示会開催

支援センターわかぎ

2月1日〜26日の期間、浜松市天竜区上野にある「ギャラリー60」において、支援センターわかぎの「さをり(機織り)班」の作品展示・販売会を開催しました。ギャラリー60は、天竜区在住の上野谷さんが自宅の一角を開放されたギャラリー。これまでも、天竜厚生会や浜北特別支援学校の展示会を催してこられました。期間中、地元の方やTV報道で知った方がお見えになられ、利用者が自由な発想で織った作品を手に取り、お買い求めくださいました。来場者の中には、意中の製品を求め、再度来場されたが売り切れてしまい、残念がっていた方もおられました。

さをり班のメンバーは展示会を重ねるにつれ、地域の皆様に認知され、そのことで「織り人(織物作家)」としての誇りと自信を持てるようになっていきます。



### 小羊学園を支える会

#### 2014年度 寄付金報告

1月受付分 349,000円 (32件)  
累 計 5,934,858円 (349件)

#### 小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園  
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。

下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)  
小羊学園本部 ☎ 053-584-3337

### 編集後記

年度末になると頭を悩ますのが、人事と財務。特に支援体制を整えるための人材確保は管理者の大きな仕事。厚生労働省の統計によると、平成15年統計時には福祉・医療従事者は469万人であったのに対し、平成24年は676万人が従事しており、伸び幅は1.4倍。一方、介護現場の離職率は16.2%と高い。幸いなことか小羊学園の離職率は毎年一桁台で推移している。この仕事を誇りを持ち、ライフワークとして利用者とともに歩んでくれる職員が多いことに感謝。春の気配が感じられる季節となりました。どうぞお休んで自愛ください。